



宍道ライオンズクラブ

# かわら版

平成30年4月1日  
第32号

宍道ライオンズクラブ事務局  
まつえ南商工会内  
TEL 070-2369-8139

## 会長スローガン

### 「活力あふれる町を目指し 地域と共に WE SERVE」

講師は、広島市児童療育指導センター診療部長を経て、同市の児童相談所・知的障害者更生相談所嘱託医などを務める岡田隆介医師（医学博士）。「子どもをめぐる問題の理解と支援」はじめ、虐待、発達障がい、学校不適応などをテーマにした岡田医師は「学校なしで生きていけ」と言うのが、私の仕事」と冒頭から刺激的な発言。「学校とは友達がいて、教育が未来を保証する場」という呪縛に皆がとらわれていた」とし、生きづらさを感じている子どもは、その呪縛から解き放つべきだと説き

### 学校なしで生きる



▲「学校なしで生きていけ」と熱く語る岡田隆介医師（写真はイラスト風に加工しています）

## 二度目の教育講演会を開催

宍道ライオンズクラブ（土江博美会長）は2月18日、「宍道公民館・しんじアエルネ」で「第2回子どもを取り巻く環境について考える講演会」を開きました。長年、子どもをめぐる問題に向き合ってきた講師の刺激的で、時にユーモアも交えた語りにより、70人の聴衆はうなずき、笑い、考え込む、とても有意義な講演会となりました。

ます。その上で、個で、学校外で生きることを保証することの大切さを、岡田医師は自身がかかわった数多くのケースで具体的に説明しました。

### 一番は「役に立つ」

また、心の満足度で一番低いのが、無視される（存在感なし）、次にしかられる（見放されてはいない）、普通に話題になる（見はくれている）、褒められる（上から目線）、認められると上がり、最も高いのが役に立つことだと。「大人は、誰かが頼りにしてくれていることを生きがいに生きているではないか」と

### プラス思考で褒める

さらに、子どもが問題を起こした時の対応として、「何でしたのか」は不毛な質問で、「何がしたかったのか」と目的を探るのが次につながるとし、「怒りの言葉が最悪」とアドバイスしました。心に突き刺さる「痛い言葉」ではなく、「ねぎらい、褒める」こと、常にプラス思考が必要なことを学ぶ貴重な時間となりました。

ライオンズクラブは子どもの健全な育成を支援します

# フォトアラカルト

11/21 JR宍道駅前プランター引き渡し式、宍道高校生徒との交流会



12/13 みずうみの里 クリスマス会



12/15 国際平和ポスター 最優秀賞表彰



12/18 しんじ幼保園クリスマス会



2/1 献血活動で 栄養ドリンク贈呈 (オーエム製作所駐車場)



3/16 わかたけ学園 そば打ち交流会



宍道ライオンズクラブ ホームページ ▶ <http://ww52.tiki.ne.jp/~shinjilc/>  
 (クラブ方針、活動内容、役員会構成、かわら版などがご覧になれます)